

News Letter

事務局よりのお知らせ

形成外科手術手技研究会
(旧形成外科内視鏡・手術手技研究会)
理事長 小林誠一郎

目次

- ・ 事務局よりのお知らせ
- ・ 第13回形成外科手術手技研究会報告およびプログラム
- ・ 最優秀演題賞受賞抄録
- ・ 第14回研究会のお知らせ

第13回形成外科手術手技研究会が、平成20年2月9日東京医大で開催されました。多数の演題発表に加えシンポジウム、特別講演と精力的なプログラムで、活発な質疑応答がなされ成功裏に終了致しました。実り多い研究会を主催して頂きました東京医大渡辺克益会長ならびに医局の皆様、そしてご参加頂きました方々に心よりお礼申し上げます。

今後とも、若手形成外科医の発表の場ならびに手術手技の伝承の場として、また形成外科手術手技に係る情報交換の場として研究会活動の活性化と拡充を図りたいと思っております。会員の皆様におかれましては、引き続きご尽力の程賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成20年第1回の理事会（平成20年2月9日開催）において、以下のことが決定されましたのでお知らせします。

1. 次期研究会は大阪大学医学部形成外科 細川亙会長の下、平成21年2月14日（土曜）、千里阪急ホテルにて開催予定。
2. 次次期研究会は長崎大学形成外科 平野明喜会長の下開催予定。
3. 規定にしたがい、波利井清紀先生、大森喜太郎先生、杉原平樹先生が名誉会員に推挙され、承認された。
4. 新運営委員として以下の4名の先生を推薦することが承認された。
近畿大学形成外科 磯谷典孝先生、東京大学形成外科 光嶋勲先生、東北大学形成外科 館正弘先生、兵庫医大形成外科 垣淵正男先生。
5. 副理事長に京都大学形成外科の鈴木茂彦理事が推薦され、選任された。なお、会の一貫性を確保するため、副理事長は時期理事長候補となることも合わせて承認された。
6. 最優秀演題賞を表彰することについての選考は会長一任とし、賞状等は郵送とすることのほか、次回研究会プログラムに表彰者氏名を掲載することが決定された。

第13回形成外科手術手技研究会 印象記

東京医科大学形成外科
渡辺克益

昨年手術手技研究会は2会場使うなど盛況でしたが、あくまでも研究会にこだわるという趣旨から今回は一会場でお願いをしました。すべての準備がおわってから、翌日の天気予報は雪とのことで、交通機関のことを心配しつつ当日を向かえました。幸い天気はなんとか持ち、集まりの出足もまあまあで、徐々に参加者も集まり熱心な討論もあって研究会としては良かったと思います。

運用とは違いますが、優秀賞を出すのはとても良い企画なのですが、選考基準をどうするのがはっきりしません。研究会の性格上、学会用の優れた発表をそのまま評価すると、研究会用のアイデア発表と差が出てしまいます。研究会の形をかえてもそれなりの心配は尽きず、少々疲れしました。今後も研究会の良さを保ちつつ発展していくことを祈って、印象記を終えます。

第13回手術手技研究会プログラム

平成20年2月9日（於東京医科大学病院臨床講堂）

1. 外傷、骨折

座長：井砂 司（東京女子医科大学）

- 01 切断肢再接着の新戦略.Ischemic Golden Period.
東京大学 形成外科 美容外科 荒木 淳
- 02 二期的静脈吻合による少ないマンパワーで行う切断指再接着
東北大学病院 形成外科 武田 睦
- 03 Closed Reduction and Internal Fixation (CRIF)による頬骨骨折治療
自治医科大学 形成外科 宇田 宏一
- 04 顔面骨骨折手術における術中 CT 装置の使用経験
東京女子医科大学八千代医療センター 形成外科 菱山 潤二
- 05 眼窩内側壁骨折手術におけるナビゲーションシステムの使用経験
金沢医科大学 形成外科 吉田 純
- 06 折損スクリュー抜去セットの使用経験
聖マリア病院 形成外科 三川 信之

2. 眼瞼、頭頸部

座長：秋元 正宇（日本医科大学）

- 07 Scarless healing を目指した頭皮ジグザグ切開法の工夫
福岡大学 形成外科 小坂 正明
- 08 側頭筋固定に関する小工夫
大阪医科大学 形成外科 大場 創介
- 09 前頭筋弁+眼窩隔膜利用による眼瞼下垂手術
小牧市民病院 形成外科 堀直博
- 10 幼少児患者における抜糸時を考慮した眼瞼縫合法の工夫
大阪市立総合医療センター 形成外科 松本 洋
- 11 涙嚢鼻腔吻合術の一工夫
香川大学 形成外科 佐野 法久
- 12 当科における眼窩周囲のアプローチの小工夫について
長崎大学 形成外科 矢野 浩規

シンポジウム～リンパ管の手術の現状

座長：光嶋 勲（東京大学）

- S1 リンパ管静脈「移植」術への赤外線観察カメラシステム（PDE）導入の試み
北海道大学医学部 形成外科 古川 洋志
- S2 当科におけるリンパ管静脈吻合術
獨協医科大学病院 形成外科 鈴木 康俊
- S3 リンパ浮腫におけるリンパ管静脈側端吻合術
一機能的リンパ管同定法と吻合法について一
横浜市立大学附属病院 形成外科 前川 二郎
- S4 Intravascular Stenting method(IVaS 法)を用いたリンパ管静脈吻合のコツ
東京大学 形成外科 成島 三長
- S5 当科におけるリンパ管静脈吻合術
岡山大学医学部 形成再建外科 長谷川 健二郎
- S6 リンパ管一細静脈吻合術の客観的評価について
久留米大学 形成外科・顎顔面外科 井上 要二郎
- S7 一期的骨盤内リンパ管静脈吻合術の長期経過観察症例の検討
東京慈恵会医科大学 形成外科学講座 武石 明精

スポンサーセッション MDCT を用いた皮弁の新展開

座長：山本 有平（北海道大学）

- 1 東京大学形成外科・美容外科 三原 誠
- 2 東京医科大学病院 形成外科 松村 一
- 3 東芝メディカルシステムズ株式会社 首都圏支店営業推進部 今井 靖夫

3. 皮弁

座長：土佐 泰祥（昭和大学）

- 13 穿通枝皮弁術における Multi Detector-row CT (MDCT)の有用性—穿通枝血管解剖 Breakthrough—
日本医科大学 形成外科・美容外科 小野 真平
- 14 MDCT3 次元アンジオグラフィ（3DCTA）による血管解剖の検討とその臨床応用
埼玉医科大学総合医療センター 形成外科 塩川 一郎
- 15 Unfolded Cube Advancement Flap を用いた面状瘻痕の形成術
久留米大学 形成外科・顎顔面外科 古賀 憲幸
- 16 穿通枝軸プロペラ皮弁(PPP flap)の手術手技
日本医科大学付属病院 形成外科 赤石 諭史
- 17 Subcutaneous Pedicle Rhomboid Flap による熱傷瘻痕拘縮の治療経験
大分県厚生連鶴見病院 形成外科 境隆博
- 18 内側足底部静脈皮弁における交通静脈の利用—交通静脈の解剖学的見地—
昭和大学 形成外科 横山 才也
- 19 耳下腺浅葉摘出術における SMAS Flap の有用性
埼玉医科大学総合医療センター 形成外科・美容外科 矢野 志津枝

4. 植皮、手術法

座長：秋田 定伯（長崎大学）

- 20 新生児広範囲熱傷に対する自家培養真皮と超薄分層植皮を組み合わせた治療—長期経過の報告—
大阪医科大学 形成外科 塗隆志
- 21 ポリウレタン不織布粘着シートを用いた網状分層植皮片の固定法とその実際
金沢医科大学 形成外科 山元 康徳
- 22 ガラスシャーレを用いた植皮片管理法
慶應大学 形成外科 高山 昌賢
- 23 下肢静脈瘤に対する3次元 CT を用いた交通枝の対応
東京慈恵会医科大学 形成外科学講座 林淳也
- 24 指尖部切断における血管新生療法（徐放化塩基性線維芽細胞増殖因子）の有用性
近畿大学医学部 形成外科 楠原 廣久
- 25 8字縫合による direct closure
大分県厚生連鶴見病院 形成外科 境隆博
- 26 多量の出血を伴うデブリードマンや皮弁作成手術におけるエアプレー—一体型電気メスの有用性
聖マリア病院 形成外科 三川 信之
- 27 血腫除去に有用なシリンドラ陰圧法の考案
順天堂 形成外科 松田 倫史
- 28 ワイヤーの断端に対して行った一工夫
大阪大学医学部付属病院 形成外科 勝野 昌代

特別講演

司会：渡辺 克益（東京医科大学）

泌尿器科領域におけるロボット支援手術の現状

東京医科大学病院 泌尿器科 講師 吉岡 邦彦

5. 再建

座長：今井 啓介（大阪市立総合医療センター）

29 口腔内再建材料としての広頸筋皮弁の有用性について

神戸大学大学院医学系研究科 形成外科学 橋川 和信

30 下顎骨悪性腫瘍摘出後の下顎骨欠損と顔面神経麻痺に対して腓骨皮弁による骨再建と皮弁付広背筋移植による動的再建を行った1例

徳島大学 形成外科 橋本 一郎

31 感染した頭蓋に対する vascularized calvarial bone flap による再建の工夫

日本医科大学千葉北総病院 形成外科 秋元 正宇

32 上顎腫瘍切除後再建における筋弁充填による口蓋再建法の問題点と工夫

慶應義塾大学 形成外科 緒方 寿夫

33 眼窩外側の皮下茎皮弁と硬口蓋粘膜を用いた眼瞼全層欠損の再建

慶應大学 形成外科 宮本 純平

34 血管閉塞をきたした遊離皮弁の救済に関する一工夫

大阪大学医学部 形成外科 菊池 守

35 CT 画像を用いた 3D 実体モデルの作製

京都大学医学部付属病院 形成外科 富士森 英之

6. 腫瘍、先天奇形

座長：三鍋 俊春（埼玉医科大学）

36 口蓋形成術・顎発育抑制に対する一工夫

昭和大学医学部 形成外科 土佐 泰祥

37 術中組織拡張による耳介挙上術

埼玉医大総合医療センター 形成外科 渡辺 玲

38 残存中央唇を利用した偽の正中唇裂の手術法に関する考察

都立清瀬小児病院 外科 笠井 昭吾

39 ナビゲーションシステムを用いた側頭骨骨腫切除術の経験

長崎大学 形成外科 草竹 兼司

40 レックリングハウゼン氏病に発生した巨大神経線維腫の切除経験

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 形成外科 安藤 和正

41 上肢びまん性巨大海綿状リンパ管腫の減量術における一工夫

久留米大学 形成外科・顎顔面外科 力丸 英明

優秀発表演題抄録

多量の出血を伴うデブリードマンや皮弁作成手術におけるエアスプレー

一体型電気メスの有用性

○三川 信之 1)、楊井 哲 1)、大橋 正和 1)、福司山洋美 1)、吉田 行貴 1)、加地 竜士 1)、保阪 善昭 2)

1. 聖マリア病院 形成外科、2. 昭和大学医学部 形成外科

以前われわれは、広範囲の熱傷創のデブリードマンの際、通常の電気メスにエアスプレーを簡易的に一体化させた特殊な電気メスを作製し、止血を簡略化する工夫を行い報告した。今回、本電気メスを多量の出血を伴うデブリードマンや皮弁作成時の各種手術に応用し、良好な結果を得たので報告する。

【方法】エアスプレー一体型電気メスは、電気メスに取り付けて術野より出るサージカルスモークを吸引するための“スモーククリア”に、逆にエアを送り込み、その先端からエアを噴射して血液や水分を飛ばしながら使用する。本電気メスを多量の出血を伴う褥瘡の手術など、各種手術の際のデブリードマンや皮弁挙上時に用いた。

【結果】壊死組織のデブリードマンの際、出血点が見つけやすく止血操作が非常に容易となり、また再建時の皮弁挙上にも本電気メスは有用であった。本電気メスを用いた場合、従来に比べ、明らかに出血量の軽減、手術操作の簡略化、そして手術時間の短縮が得られた。本法を行うにあたり、特に合併症や問題点は生じなかった。

【考察】電気メスで直接止血や切開する場合、血液や水分の存在下では組織の熱焼灼に支障をきたすため、ガーゼで拭き取ったり吸引したりするなどの操作が必要となる。一方、手術患者、特に熱傷や褥瘡、悪性腫瘍などの患者の中には全身状態に問題のある場合が多く、手術の際は患者の全身的負担を極力軽減するため、手術時間をより短くし、出血量を最小限に抑えることが大切である。

今回われわれは、多量の出血を伴うデブリードマンや皮弁作成手術の際、エアスプレー一体型電気メスを使用し、エアを噴射して血液や水分を飛ばしながら、凝固止血や切開する工夫を行った。その結果、出血量の軽減、手術操作の簡略化、そして手術時間の短縮が得られた。エアスプレー一体型電気メスは、多量の出血を伴う各種手術において非常に有用であると考えられる。

血腫除去に有用なシリンジ陰圧法の考案

○ 松田 倫史、林 礼人、小室 裕造、梁井 皎
順天堂 形成外科

【目的】術後の皮下血腫はしばしば生じる合併のひとつである。植皮の場合は生着不良、皮下腫瘍の場合は感染の原因や線維組織の残存をきたす場合がある。血腫の除去方法としては、血腫が融解した後に太い注射器で穿刺する方法や、創を一部開放して圧出するなどの方法が一般的であるが完全除去を行うのにしばしば難渋することがある。今回われわれはディスポーザブル・シリンジを用いて、従来の方法では除去困難な血腫を簡便に取り除く事ができると考えられるシリンジ陰圧法を考案したので報告する。

【方法】ディスポーザブル・シリンジの外筒の先端を切除する。植皮の場合は小切開を加え、縫合の場合は一部を抜糸するなどして創を開放し、そこにシリンジを密着させる。その際、皮膚の保護と隙間ができないようにハイドロコロイドドレッシング材をシリンジと皮膚の間に挟むようにして、内筒を引き陰圧を確実にかける。

【結果】融解した血液とともに凝結塊も摘出することができ、症例によっては著明な血腫の減少を認める事ができた。強い圧出を行わない為、患者の痛みは少なかった。

【考察】シリンジ陰圧法は血腫除去に際して、穿刺や圧出では除去困難な血腫を取り除く事ができる、簡便で効果のある方法と思われた。

第 14 回形成外科手術手技研究会のお知らせ

日時 平成 21 年 2 月 14 日 (土)

場所 千里阪急ホテル

560-0082 大阪府豊中市新千里東町 2-1-D-1

TEL 06-0872-2211

FAX 06-6832-2161

この度、平成 21 年 (2009 年) の形成外科手術手技研究会を大阪大学大学院医学系研究科形成外科学教室が主催させていただくことになりました。本会は形成外科内視鏡手術研究会から数えて今回で 14 回目となりますが、第 12 回からは形成外科手術手技研究会と名を改め、一段と発展してきております。そのようななかでこの会を開催させていただくことを私も教室員も大変光栄に感じております。

さて、手術手技は外科医にとって最も重要な臨床技術です。もちろん手術治療を行う上では術式選択など手術の全体的な方向性を見定めることが重要であることはいまでもありませんが、それを正しく具現する技術と能力がなければその治療は絵に描いた餅になってしまいます。しかしながら、手術手技の細部や小工夫などは大きな学会では発表されにくく折角のノウハウが普及しにくい傾向にあります。本会はそのような手術手技に関する発表や討論をする場であり形成外科における手術技術の向上を望む人には是非参加していただきたい研究会です。またいろいろな手術手技のノウハウをお持ちの方はその知識を個人の中に留めず世間に公開して社会貢献していただく良い機会です。

会場としました千里阪急ホテルがあります千里中央は大阪伊丹空港からモノレールで 15 分、また新大阪駅からでも地下鉄で 15 分という全国からのアクセスが極めて良いところです。大阪の繁華街として有名なキタ (梅田周辺) やミナミ (心斎橋・難波周辺) へは地下鉄で乗り換え無しでアクセスできます。大阪は食い倒れの街としても有名ですのでこちらも学会にご参加のついでに楽しんでいただければ幸いです。最後になりましたが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第 14 回形成外科手術手技研究会

会長 細川 亙